



令和7年度 森林・林業研究センター 概要



— 森林を 守り・育て・活かす 森林の都しずおかの実現 —

令和7年4月

静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター



はじめに

静岡県農林技術研究所

森林・林業研究センター長 荒生 安彦

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センターは、社会実装を重視した取組みを展開します。地域のニーズに即応し、研究成果を実践に役立て、持続可能な森林管理や林業の推進に貢献するとともに、皆様との協力を通じて、より豊かな自然環境と地域社会の発展を目指します。

目 次

はじめに 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター長 荒生 安彦

I	沿革	1 頁
II	組織	1 頁
III	令和7年度試験研究課題一覧	2 頁
IV	令和7年度試験研究課題	
	スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発	3 頁
	マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化	4 頁
	気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進	5 頁
V	研究成果の普及実績	8 頁
VI	施設の案内	9 頁

I 沿革

年度	記録・記事
昭和 32(1957)	林業試験場を設置
昭和 36(1961)	上狩野分場を農業試験場に移管
昭和 44(1969)	林業機械化指導所を林業試験場川根分場とする
昭和 47(1972)	川根分場を金谷林業事務所に移管
昭和 63(1988)	林業技術センターとして再発足
平成 7(1995)	きのこ総合センターを東部農林事務所から移管
平成 19(2007)	きのこ総合センターを東部農林事務所に移管 農林技術研究所 森林・林業研究センターとなる
平成 22(2010)	森林育成科及び木材林産科を設置
平成 30(2018)	木材林産科を森林資源利用科に名称変更

シンボル・ツリー「センペルセコイア」の生長



昭和 32(1957)年

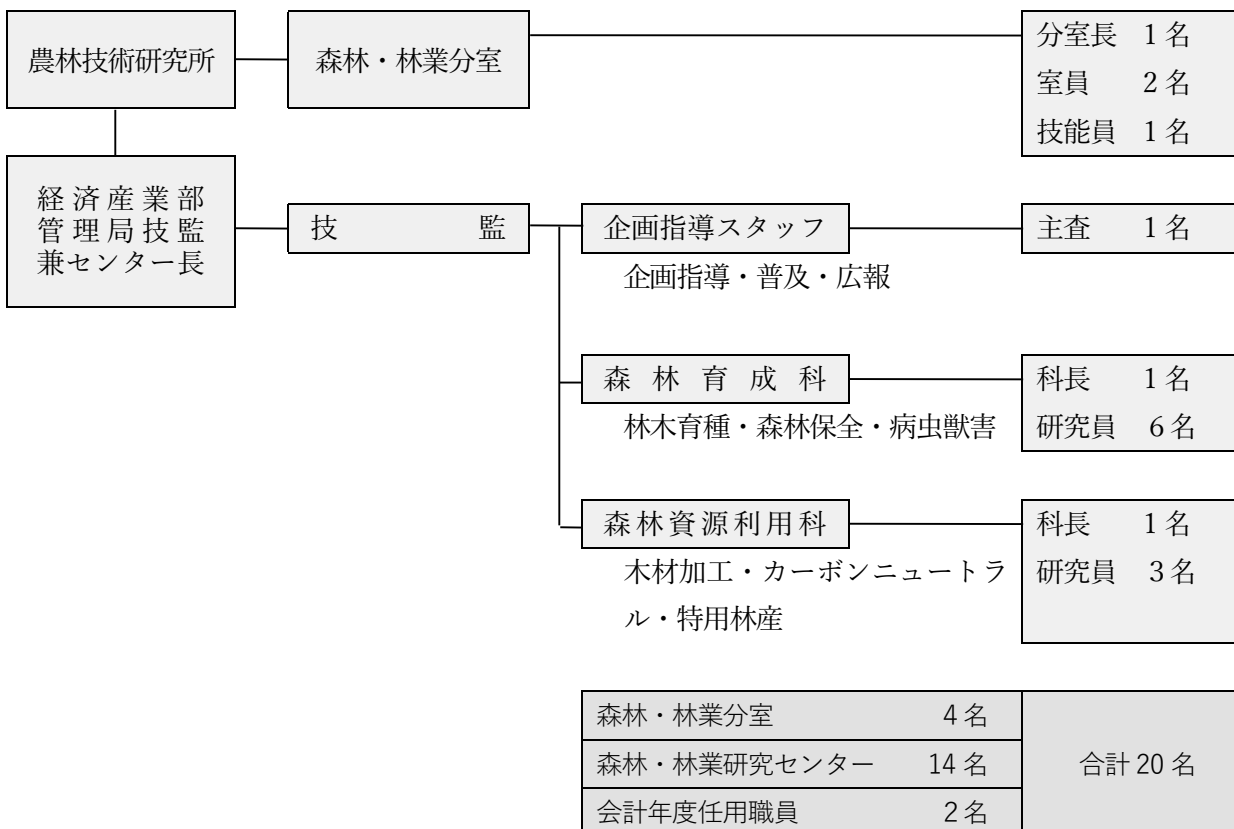
昭和 53(1978)年

昭和 63(1988)年

平成 18(2006)年

平成 28(2016)年

II 組織図



Ⅲ 令和 7 年度試験研究課題一覧

スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発

- 1 形質的に優れたスギ・ヒノキ苗木を育成するための種子生産に関する研究（R3 - R7）〈共〉
- 2 林業用主要樹種の種苗生産と造林技術の改良に関する研究（R5 - R9）〈共〉〈補〉
- 3 木材生産工程における CO₂排出量推定手法の開発（R6 - R8）

マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化

- 4 （新）県産材製品を非住宅分野へ利用拡大するための技術開発
(R7 - R9) [成]〈補〉〈共〉

気候変動・脱炭素等の環境に配慮した持続可能な農林業の推進

- 5 （新）早生樹の生産性向上技術の開発（R7 - R11）〈交〉〈受〉〈共〉
- 6 気候変動に適応した新たな森林病虫害防除に関する研究（R5 - R9）
- 7 公益的機能の維持・増進のための森林施業技術の研究（R6 - R10）〈共〉
- 8 野生動物の出没・柵内侵入リスク評価に関する研究（R6 - R8）
- 9 （新）加害動物の行動特性に基づく防護柵の最適化と群れごと捕獲除去する技術の構築
(R7 - R9)

（新）：新規課題、[成]：新成長戦略研究、〈委〉：国庫委託、〈補〉：国庫補助、〈交〉：国庫交付金、
〈受〉：受託事業、〈共〉：共同研究

Ⅳ 令和7年度試験研究課題

スマート農林業の社会実装に向けた革新的生産技術の開発

1

形質的に優れたスギ・ヒノキ苗木を育成するための種子生産に関する研究

(R3－R7)
《 一般研究 》
〈 共 〉

背 景

本県では、スギ30系統、ヒノキ27系統の特定母樹を選抜し、ビニールハウスを用いた閉鎖型採種園で特定母樹同士を交配させる種子生産を始めています。全国に先駆けた発展途上の技術であることから、種子の品質向上や生産の効率化が求められています。

内 容

本研究では、特定母樹のクローンや子の成長や材質を調査し、詳細な特性評価を行います。また、閉鎖型採種園での作業方法を検証し、人工交配作業等の効率化等を進めるとともに、種子の早期生産技術を確立していきます。



閉鎖型採種園の内部



人工交配作業

2

林業用主要樹種の種苗生産と造林技術の改良に関する研究

(R5－R9)
《 一般研究 》
〈 補 〉〈 共 〉

背 景

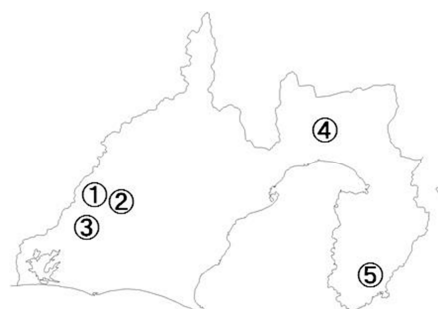
確実な再造林や収益性向上のためには、効率的植栽が可能なコンテナ苗や成長の早いエリートツリー苗木の供給が必要です。そのためには、短期間で育ち、獣害にも有効なコンテナ苗の育成技術の改良と新たなエリートツリーの開発を行う必要があります。

内 容

本研究では、コンテナ苗の出荷規格の見直しと育苗方法の違いによる食害を受けにくいコンテナ苗の育成に取り組みます。また、県内に設定している育種集団林の調査を進め、無花粉や炭素貯留能力が高く、環境保全にも貢献できる優良系統の開発を行います。



コンテナ苗の早期育成



県内に設定した育種集団林

3

木材生産工程における CO₂ 排出量推定手法の開発(R6－R8)
《 一般研究 》

背 景

建築資材に木材を使用することはCO₂の削減に貢献するとされていますが、木材の環境への貢献度を正確に評価し消費者にPRするためには、木材の生産工程で排出されるCO₂量を客観的かつ定量的に把握する必要があります。

内 容

本研究では、木材生産の各工程において使用される機械のCO₂排出量の調査を行い、木材生産における環境への負荷を数値化します。また、木材の生産工程のCO₂排出量を算定するための要因や基準を検討します。



木材生産工程イメージ

マーケットインに応える新商品開発による静岡農林産物のブランド力強化

4

安心・安全な県産材製品を多様な建築物に利用拡大するための技術開発

(R7－R9)
《 新成長 》
〈 補 〉 〈 共 〉

背 景

人口減少等を背景に、県産材の主な供給先である住宅の需要は減退している中、非住宅用中・大規模木造建築物の需要に答える製品化に向け有効な活用技術が急務になっています。このため、非住宅向けの新たな木質材料やJAS製材品の加工・利用技術が求められています。

内 容

新たな木質材料（木質ボード）を建築用部材として活用するために、企業や大学と共同で、耐力壁などの構造利用や防火性を付与する技術の開発を行います。また、含水率を15～20%に仕上げるために、乾燥前の選別技術の開発など効率的なJAS製品の製造方法を解明します。



新たな木質ボードの開発



平角の乾燥

5

早生樹の生産性向上技術の開発

(R7-R11)
〈交〉〈受〉〈共〉

背 景

2050年までに社会全体の温室効果ガス排出量をゼロにすることは経済界に課された大きな課題です。林業においても、これまで展開してきたスギ・ヒノキに加えて、二酸化炭素吸収に優れ、収益性にも優れた早生樹による新たな造林方法が求められています。

内 容

本研究では、既存の早生樹の植栽地から得られる成長量等の情報を元にして、育成方法や収穫方法等を調査します。また、早生樹の中には、収穫後に次の苗木を植栽しなくても落下種子から生じた苗により天然更新が可能な樹種があることから更新方法について調査します。



テーダマツ育苗（実生苗）



早生樹合板（左：テーダマツ、右：スラッシュマツ）

6

気候変動に適応した新たな森林病虫害防除に関する研究

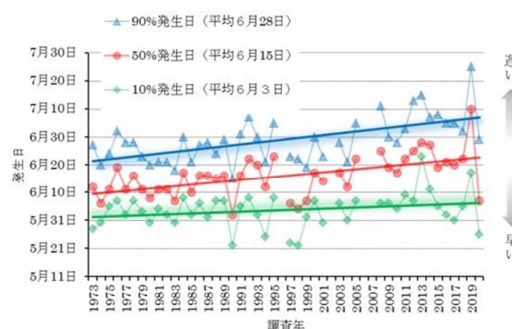
(R5-R9)
《 一般研究 》

背 景

近年の気温上昇により、マツ材線虫病の媒介昆虫マツノマダラカミキリの成虫発生時期に変化が見られるため、薬剤散布の時期等を再検討する必要があります。また、南方系の新たな病虫害の発生リスクも高まっていることから、対策に必要な生態の解明が求められています。

内 容

本研究では、カミキリ成虫の羽化脱出とクロマツの後食を屋外閉鎖実験系で再現し、より効果の高い薬剤散布時期等を明らかにします。また、今後侵入のおそれのある南方系の森林病虫害について、高リスク種の把握、被害発生リスクの高い場所の予測を実施します。



背 景

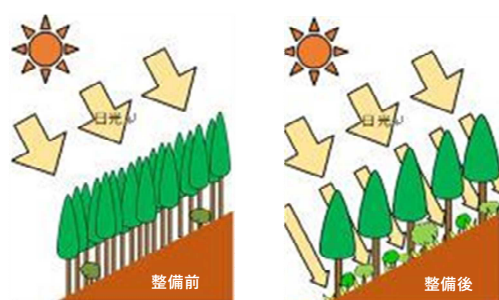
本県では、森林の公益的機能の維持・増進を図ることを目的に、海岸防災林の再整備や荒廃森林の整備などの事業を推進し、森林の適切な管理・整備による多様性のある豊かな森林の保全に取り組んでいます。

内 容

本研究では、整備が進んでいる“ふじのくに森の防潮堤”の維持管理に必要な植栽木の密度管理手法を明らかにするための各種調査を実施します。また、荒廃森林の整備を目的とした“森の力再生事業”のモニタリングを実施し、整備効果に影響する要因を解明します。



ふじのくに森の防潮堤



荒廃林の整備効果イメージ

背 景

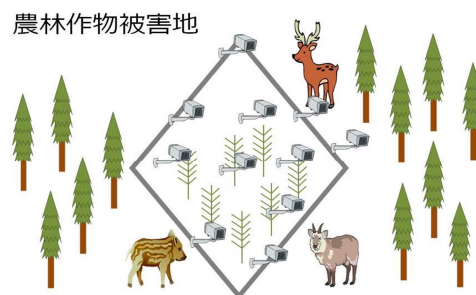
近年、野生動物は急激に分布を拡大し、人間の生活圏にも頻繁に出入りするようになり、事故や被害のリスクが高まるなど様々な影響が生じています。そのような中、出没の可能性が高い条件や場所を明らかにして出没を予測し、未然に防ぐ対策が求められています。

内 容

本研究では、過去に大型野生獣が市街地に出没した事例や交通事故が発生した事例について調査し出沒リスクを評価します。また、農林産物への食害が問題となっているニホンジカの行動を調べ、リスクマップの作成及び柵内侵入監視システムの構築を目指します。



養鶏場で家禽を襲うクマ



柵内監視システムの構築

背 景

加害動物から農作物を守る防護柵は、破損箇所等綻びが狙われて侵入されることが多いため、補強ポイントの解明が求められています。また、捕獲による対策では2～3頭の小群単位で行動するシカ等について、捕り逃がし無く群れごと捕獲する技術が求められています。

内 容

本研究では、被害地で防護柵の破損状況や侵入時の加害動物の行動特性を明らかにし、加害動物種ごとに防除する上で重要なポイントを明らかにします。また誘引物や既存の防除資材により、侵入した加害動物を誘引誘導し、群れごと捕獲して除去する技術開発に取り組みます。



柵をくぐるイノシシ



群れで行動するシカ

V 研究成果の普及実績

研究成果は、研究発表会の開催をはじめ、出前講座など講習会・研修会や業界情報誌などを通じて、情報提供することで、新技術などの実用化を図っています。令和6年度の研究成果の普及資料は、次のとおりです。これらは森林・林業研究センターのHPからダウンロードできます。

■ 研究成果情報

No.	タイトル
1	農地に侵入するシカの対策
2	静岡県産シイタケ等の付加価値向上技術の開発

■ 研究成果写真集

No.	タイトル
1	シカ・イノシシ併用侵入防止柵の開発

■ YouTube で動画配信

森林・林業研究センターではYouTubeチャンネルを開設し、最新の研究や旬の話題を動画で随時配信しています。

https://www.youtube.com/channel/UCTjdTosARpVUFUIX_tyY95A



写真：YouTube チャンネルの画面



写真：各種広報誌

VI 施設の案内



■ 建 物

当センターの建物は昭和 63 年に改築されたもので、大断面集成材を構造材に使用し、内装には県産材をふんだんに活用するなど、県産材の需要拡大につながるモデル的な工法・デザインとなっています。平成 4 年には、第 3 回公共建築賞の優秀賞を受賞しました。



■ 森の科学館（ドングリホール）、森の科学園

「ドングリホール」は森林の働きや木材の性質などをわかりやすく解説したり、動物の剥製を展示している入場料無料の資料館です。建物は、丸太小屋組による伝統工法を採用し、間伐材利用のモデルとなっています。

また、センター敷地（森の科学園）内には国内外の約 1,000 種（品種を含む）、約 1 万本の樹木が植栽されており、四季折々の自然を楽しめます。（年間を通じて見学可能です）

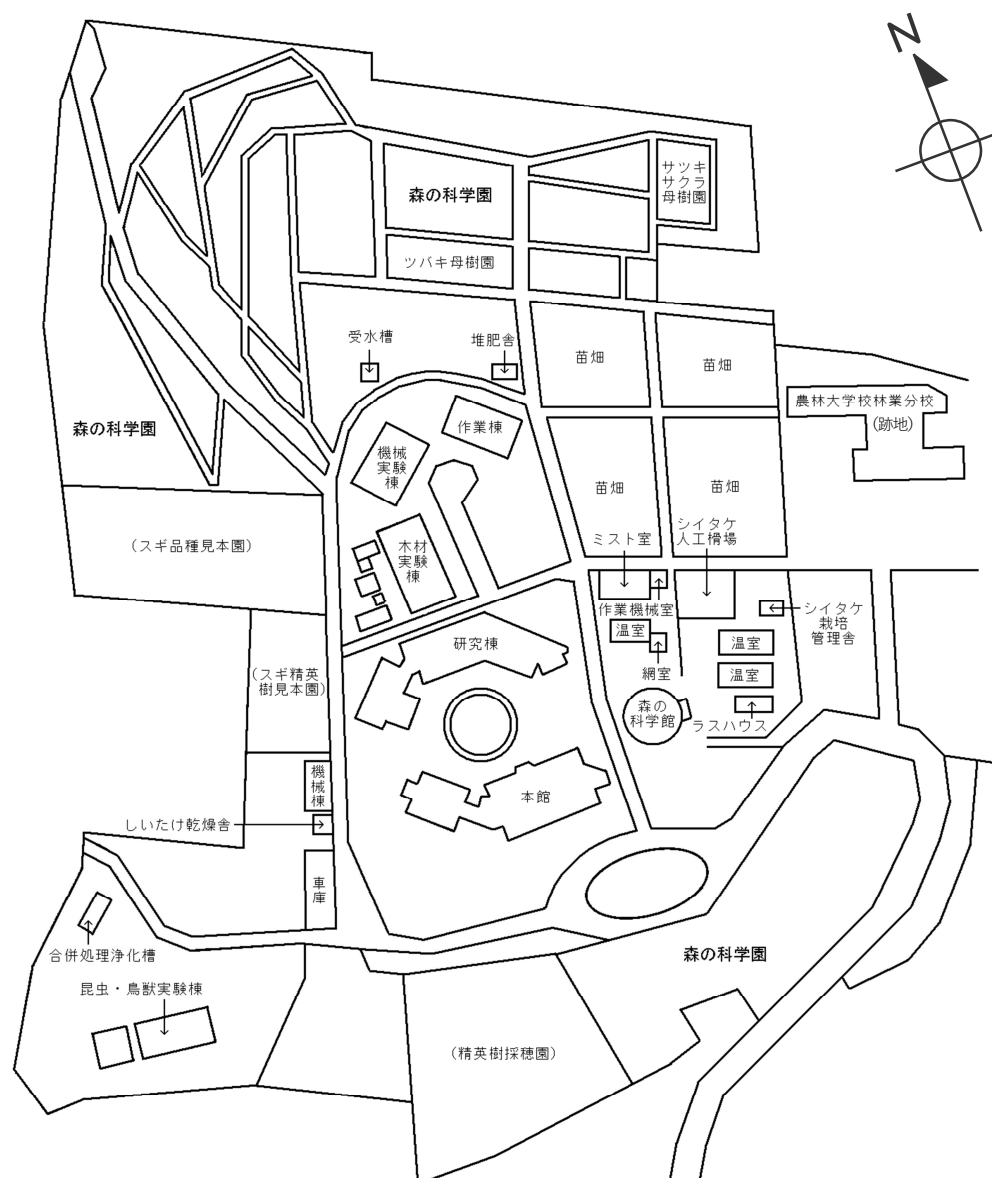


■ 木質ペレット焚き冷暖房施設

平成 26 年 2 月に、県内の県有施設初の木質ペレット焚き冷暖房施設を導入しました。この木質ペレット焚き吸収冷温水機を利用した冷暖房施設は、当時、県内の空調設備メーカーが世界で初めて開発したものです。

木質バイオマス燃料の利用は、林業の活性化や地域経済の活性化が期待される他、脱炭素社会や SDGs の実現にも貢献します。





■ 交通案内

- ・ JR 浜松駅より遠州鉄道へ乗換え、西鹿島駅下車
- ・ JR 掛川駅又は新所原駅より天竜浜名湖鉄道へ乗換え、西鹿島駅下車
- ・ 西鹿島駅より徒歩 15 分
- ・ 東名高速道路、浜松インターより約 40 分
- ・ 新東名高速道路、浜松北インターより約 10 分



〒434-0016 静岡県浜松市浜名区根堅 2542-8

TEL 053-583-3121 FAX 053-583-1275

E-mail FFPRI@pref.shizuoka.lg.jp

URL <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1046795/1044313.html>



ふじのくに
森林の都
もりのみやこ
しずおか

令和7年度森林・林業研究センター概要

令和7年4月編集・発行

静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター企画指導スタッフ

TEL 053-583-3121 FAX 053-583-1275

この情報はホームページからご覧になれます。

